

施策評価調書（主要施策別）

様式 1

基本目標	安定した経営を持続できる水道	整理番号	5 - (9)
主要施策	業務能率の向上	施策主務課	業務振興課
施策の趣旨	適正で能率的な業務運営を確保し、お客様に信頼される経営を推進するため、職員の業務能率の向上を図ります。併せて、業務処理の迅速化を図るため、計画的に情報化を推進するとともに、お客様の個人情報等については管理を徹底します。		

I 施策を達成するための主な取組と達成状況

取組 ①	能率的な業務運営の確保		担当課	業務振興課
	(取組の概要) 300万人のお客様を受け持つ県営水道の業務は、管理部門、技術部門を問わず膨大で多岐にわたることから、広く業務に関するマニュアルを整備し、OJT (on-the-job-training 職場内教育) と併せて活用することなどにより、能率的な業務運営の確保を図るとともに、コンプライアンス(法令遵守)による、お客様に信頼される水道経営を推進していきます。			
	(当年度の取組概要) 適正で能率の良い業務運営を確保するため、水道事業に特有の検針、滞納整理業務を中心にマニュアルの整備を進めることとし、当年度は、そのための現状検証を行います。また、既存の業務手引等の内容について、見直しを行います。 当初予算額 0千円、決算(見込)額 0千円			
	達成指標	業務マニュアルの整備状況	内部評価	
	達成目標	マニュアル整備に向けた検証と既存マニュアルの一部修正等	a : 達成している b : 概ね達成している c : 未達成だが進展している d : 進展していない	
	達成実績	マニュアル整備に向けた検証		
(評価結果の説明・分析) 検針、滞納整理業務に係る既存の手引や事務処理要領、処理方針の事務連絡等について、現状における活用状況などの検証を行い、問題点を洗い出し整理しました。		前年度評価	-	

取組 ②	情報化の推進		担当課	業務振興課
	(取組の概要) 現在運用中の情報システムについて、情報化計画に基づき使用機器類の統一化を進めるとともに、これらの管理を一元化していきます。 これにより、システム全体を運用しやすいものにして、業務能率を向上させるとともに、コストの削減を図ります。			
	(当年度の取組概要) 当年度は、14システム*のうち4システムを対象に整備を行います。 これら4システムを中心に、統一化が可能な使用機器類については一括して調達します。 ① 整備対象システム 新総合積算、管路情報管理、指定給水装置工事業業者管理、知識共有管理の各システム ② 整備内容及び回数 機器類の更新や基本ソフトのバージョンアップ等を内容として、計4回実施 ③ 一括調達する機器類 情報システム汎用パソコン255台、プリンタ64台			
	※) H23年度に情報化計画の一部見直しを行い、5か年の整備対象を11システムから14システムに変更するとともに、整備回数を15回から20回に変更しました。			

当初予算額 718,407千円、決算額 531,843千円 (情報システムの運用コストに係るもの)		
達成指標	システム整備回数	内部評価
達成目標	4回	a : 達成している b : 概ね達成している c : 未達成だが進展している d : 進展していない
達成実績	4回	
(評価結果の説明・分析) <p>当年度の対象4システムについて4回の整備を行い、これに合わせて、使用機器類の統一化を予定どおり進めました。</p> <p>情報システムを計画的に整備することにより、情報システムの健全性が向上し、安定した業務の執行に寄与しました。また、使用機器類の統一化を行うことで、各情報システムの品質や機能が均一化され、維持管理の効率が向上しました。</p> <p>パソコンやプリンタ類については一括調達とし、大量購入の利点を活かしてコストの削減を図りました。</p>		前年度評価 ー

取組 ③	情報の適正管理		担当課	業務振興課
	(取組の概要) <p>業務上の必要から保有する膨大な量の個人情報等が漏洩することのないよう、情報管理の徹底を図ります。</p> <p>特に、情報化の推進により、電子化された個人情報等の量が増大しており、防御体制の強化が重要であることから、情報セキュリティ対策として、外部からの侵入はもとより内部においても不正なアクセスが発生しないよう、研修・啓発を強化するとともに、情報システムの使用状況の把握、既設の入退室管理システムの更新等の防御対策を徹底します。</p> <p>こうした取組により、情報化の推進によってもたらされる業務能率の向上をサポートしていきます。</p>			
	(当年度の取組概要) <p>個人情報などの適切な管理のために、職員への教育とシステムの強化を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員への情報セキュリティ教育の実施 情報システムの監視強化 <p>当初予算額 4,033千円、決算額 2,430千円</p>			
	達成指標	情報セキュリティ研修受講者数	内部評価	
	達成目標	150人	a : 達成している b : 概ね達成している c : 未達成だが進展している d : 進展していない	
達成実績	123人			
(評価結果の説明・分析) <p>情報セキュリティの知識や意識の向上に資する教育的な研修を10回実施し、情報システムを利用する職員延べ123人が受講しました。</p> <p>このほか、基幹系ネットワークの運用管理を適切に行うとともに、これに接続する端末の更新に合わせてセキュリティプログラムの更新を行うなど、システムの監視体制の強化や、個人情報等の漏洩防止対策の徹底を図りました。</p>		前年度評価	ー	

II 施策の成果

成果指標	①業務の改善度 ②情報システム運用コスト削減率	内部評価	
成果目標	①業務改善に向けた業務マニュアルの整備 ②運用コストの削減に向けた使用機器類の統一化	a : 成果が出ている b : 概ね成果が出ている c : 成果が小さい d : 成果が出ていない	
成果実績	①以下(評価結果の説明・分析)欄に記載 ②		
(評価結果の説明・分析)			
<p>① 業務マニュアルの整備については平成25年度末の完了を目指し、検針、滞納整理業務等の委託化した部分も含めて業務の現状調査を進めており、検針事務から収納管理事務に係る事務フローについて整理しました。</p> <p>② 情報システムについては当局事業運営のため、安定したシステム運用が最優先であることから、更新期を迎える端末機器類の適宜更新をしていますが、実施にあたり、統一化を進めることで調達数によるメリットを生かしコストの削減を図りました。また、安定したシステム運用のため、今年度の計画に合わせて4システムで4回の整備を行いました。</p> <p>当年度の取組が概ね順調に進展したことを総合的に評価して、成果が概ね得られているものと考えます。</p>		前年度評価	—

III 達成状況及び成果を踏まえた今後の進め方（施策の方向性）

<ul style="list-style-type: none"> 各取組の進め方 取組① 能率的な業務運営の確保 (継続：検針、滞納整理業務に係る既存の手引、事務処理要領などの現状検証を踏まえ、マニュアルの整備に向けた整理、分類を進めます。また、使いやすいマニュアルとするため、水道事務所等の実務の状況を調査して担当職員等の意見を反映させていきます。) 取組② 情報化の推進 (継続：情報システムの整備を進める中で、更新する機器類の一括調達などにより引き続きコストの削減に努めるとともに、安定的なシステム運用を持続できるよう適時・適切な維持管理を行っていきます。) 取組③ 情報の適正管理 (継続：引き続き、職員に対する情報セキュリティ教育を実施するとともに、情報システムの監視強化に取り組み、保有する情報の適正な管理に努めていきます。) 施策の方向性 業務マニュアルや情報システムの整備等の各取組を計画的に推進することにより、着実に業務能率の向上を図っていきます。 	内部評価	
	a : 継続 b : 一部見直して継続 c : 休止・廃止	
	前年度評価	—

内部評価機関 (政策調整会議)に おける評価	(総合的な意見等) 自己評価を妥当と認める
	(特記事項) なし